

## 【会員通信】

## 大洲市菅田町におけるバッタ目昆虫の観察記録

松田久司

2010年8月21日に、愛媛県大洲市菅田町の大洲家族旅行村（環境省標準メッシュコード：5032-2405）において、NPO法人かわうそ復活プロジェクトの主催による鳴く虫の観察会を実施した。この際、9科32種のバッタ目昆虫を観察したので報告する。大洲家族旅行村は富士山公園の中にあり、果樹園、草地、池が配置されている。観察会は小学生から70才代までの24名が参加し、同日18時40分から20時10分に実施された。観察会の講師である愛媛大学大学院連合

農学研究科の小川次郎氏が現地でバッタ目昆虫を見つけてその都度解説を行い、筆者が記録を行った。種の同定は現地にて行い、同定が難しい種は一旦捕獲して細部を確認した後その場に放虫した。一般向けに行った普及のための観察会であったため、標本は作成しなかったが、後日小川氏に当日の記録の確認をしていただいた。観察された種の一覧を表1に示す。なお、学名は市川ほか（2008）にしたがった。最後に、観察会の講師と記録の確認をしていただいた小

表1. 出現種リスト

種名	学名	
キリギリス科	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>
	カヤキリ	<i>Pseudorhynchus japonicus</i>
	クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>
	クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>
	ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>
	オナガササキリ	<i>C. gladius</i>
	ハタケノウマオイ	<i>Hexacentrus japonicus</i>
	クツワムシ科	<i>Mecopoda niponensis</i>
ツユムシ科	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i>
	サトクダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i>
コオロギ科	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>
	タイワンエンマコオロギ	<i>T. occipitalis</i>
	クマコオロギ	<i>Mitius minor</i>
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>
	ミツカドコオロギ	<i>L. doenitzi</i>
	クマスズムシ	<i>Sclerogryllus punctatus</i>
マツムシ科	クチキコオロギ	<i>Duolandrevus ivani</i>
	マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus</i>
	アオマツムシ	<i>Trujalia japonica</i>
	スズムシ	<i>Meloimorpha japonica</i>
	ヒロバネカンタン	<i>Oecanthus euryleytra</i>
	コガタカンタン	<i>O. similator</i>
	シバズ	<i>Polionemobius mikada</i>
ヒバリモドキ科	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>
	カネタタキ科	<i>Atractomorpha lata</i>
オンブバッタ科 バッタ科	オンブバッタ	<i>Patanga japonica</i>
	ツチイナゴ	<i>Oxya japonica</i>
	ハネナガイナゴ	<i>Acrida cinerea</i>
	ショウリョウバッタ	<i>Gonista bicolor</i>
	ショウリョウバッタモドキ	<i>Glyptobothrus maritimus</i>
	ヒナバッタ	<i>Locusta migratoria</i>
	トノサマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>
	クルマバッタ	
出現種数	32	

川次郎氏に感謝します。

阪自然史センター，鳴く虫セレクション．東海大学出版会．神奈川．246-321．

## 引用文献

市川顕彦・初宿成彦．2008．日本の鳴く虫一覧：直翅目（目から属まで）．大阪市立自然史博物館・大

南予生物16：75-76，（2010年10月13日受付）  
連絡先 松田久司（〒796-8010 八幡浜市五反田1-933 e-mail：vzz02040@nifty.ne.jp）



図1. ホシササキリの雄



図4. ミツカドコオロギの雄



図2. オナガササキリの雌



図5. スズムシの雄



図3. ハタケノウマオイの雄



図6. シヨウリヨウバッタの雌雄